

防衛費のリアル(6) 軍拡ブーム

国民が防衛費の急増を、ある程度仕方ないと受け留める背景として、「時代の気分」と「安全保障環境の悪化」を考察しました。そして、日本の軍拡やウクライナ侵攻での軍事力のデータを振り返りました。実際、米国やロシア、中国はもちろん、NATO 諸国でも、軍拡が流行となってきています。

考えてみれば、角を突き合わせ、兵隊さんの命、場合によっては市民の命をも犠牲にして領土や資源をぶん取るより、自由貿易で対価を支払う方が安上がりで安全確実に資源が入手できるのは、子供でも分かることです。にも拘らず、大の大人が軍拡競争に血眼になるのは何故でしょうか？世の中、「今だけ、金だけ、自分だけ」の好戦的な輩が跋扈しているのを見ると、絶望的な気持ちにさえなります。アインシュタイン博士は、この世には2つの無限があると看破しました。「『宇宙』と『人間の愚かさ』だ。しかし、『宇宙』については確信はないけどね・・・」。と言うことは、博士は「『人間の愚かさ』は限りない」と見切っておられた？ほんとうに救いはないのでしょうか？

いささか不謹慎ですが、軍拡をゲーム理論で考えると、次のような変遷が浮かび上がります。誰しも穏やかに暮らすのが望ましく、平和な時代が続きます。するとハトに交じって、腕力の優れたタカが我が物顔に振る舞い始めます。ハトはタカに勝てるはずもなく、次第にタカだらになります。すると、今度はタカどうしで争い始めます。タカならではの凄惨な争いが続くと、お互い疲弊しまくり、再び穏やかな平和を願うこととなります。



人間が愚かである限り、世の中、この無限ループを繰り返していただくだけでも、人間には記憶があり、反省（自虐という人もいますが）があるとしたら、ループではなく、少しずつでもスパイラルに前進していると思いたいです。

（竹の台 西元）